

提出されたご意見とそれに対する都市圏(23市町村)の考え方

No.	提出市町村	項目	ご意見	都市圏(23市町村)の考え方	対応内訳
1	熊本市	素案 p.9	最近のCOP30等の動向や経過を市民に分かり易く紹介して頂きたい。市民が地球温暖化に関して更に関心を高めるような仕掛けを含めて。	ご意見のとおり、住民の皆様に対して地球温暖化に関する情報を分かりやすく伝えることは重要であると考えています。今後、情報発信を行う際には、住民・事業者の皆様への地球温暖化への関心がより高まるよう工夫してまいります。 なお、本計画では、COPを含む地球温暖化に関する動向については、計画内の他の項目とのバランスを考慮し、これまでの地球温暖化対策における主な動向の中から抜粋して掲載しております。	対応4(事業参考)
2	熊本市	素案 p.19	小生は自宅の屋根に2006年3月、当時の熊本市の推奨もあり太陽光発電装置を設置して、今年で20年目になります。熊本市は当時から、再生可能エネルギーに関して積極的にあり、特に太陽光パネル設置は自然環境破壊のリスクが少ない住居や建屋の屋根の上がベターと考えます。	太陽光発電を含む再生可能エネルギーの導入に当たっては、自然環境との調和など、地域との共生を前提に推進していくことが重要であり、ご意見のとおり、屋根設置の太陽光発電は有効な導入形態の一つであるとと考えております。 本計画では、地域脱炭素化促進事業の促進に関する事項として、再生可能エネルギー(太陽光)の導入拡大を図るための促進区域等を新たに設定し、地域と共生し地域に貢献する再生可能エネルギー事業の導入拡大を図ることとしています。	対応2(既記載)
3	熊本市	素案 p.96,97	昨今は、熊本市内や近隣に半導体関連企業の進出が盛んだが、水資源、都市交通だけでなく、地球温暖化への影響や再生可能エネルギーに関する事象の対策や検討状況を庁舎の玄関近くなど、多くの市民の目に触れやすい場所に定期的に掲示して頂きたい。	企業進出や人口増加等、昨今の社会経済情勢を踏まえた地球温暖化の状況の変化や、地球温暖化対策に関する都市圏の取組を広く住民・事業者の皆様へ周知していくことは重要であると考えており、これまで都市圏の地球温暖化対策の進捗状況や温室効果ガス排出量の公表等を行ってまいりました。 本計画では、住民・事業者の皆様における地球温暖化対策の認知度と環境意識の向上を目的として、デコ活に関する情報発信、環境教育、地球温暖化対策に関するイベントの開催等を実施することとしておりますので、その際、定期的な掲示を含め、より多くの住民・事業者の皆様にも効果的に届くような周知方法を研究してまいります。	対応4(事業参考)
4	熊本市	素案 p.96,97	熊本は森の都、水の郷、学問の府として国内外でも有名です。特に最近海外からの観光客も増加し、外国の人々の働く人も増加傾向にあります。これらを踏まえ、地球温暖化や再生可能エネルギーに取り組んでいる熊本市として、それらの構想や施策を分かり易く、日常的に市民が多く集まる通りや広場などに低炭素都市実現センター等を設置して訴求すべきだと考えます。	ご意見のとおり、熊本連携中枢都市圏を訪れる観光客など住民以外の皆様も含めて多くの方に都市圏の地球温暖化対策を知っていただくことは、重要であると認識しております。 本計画では、住民・事業者の皆様における地球温暖化対策の認知度と環境意識の向上を目的として、デコ活に関する情報発信、環境教育、地球温暖化対策に関するイベントの開催等を実施することとしておりますので、その際、観光客や在住外国人を含めたより多くの方に効果的に届くような周知方法を研究してまいります。	対応4(事業参考)
5	熊本市	素案 p.96,97	具体的な計画を立案して実行される中で、一般市民を含め、定期的に毎月ワークショップ等の低炭素都市実現や地球温暖化提言等、情報交換を提言します。	ご意見のとおり、地球温暖化対策に関する様々な施策を実施するに当たっては、住民・事業者の皆様からの意見を聴取しながら進めていくことが重要であると考えております。 熊本連携中枢都市圏では、都市圏における温室効果ガス排出量や本計画の進捗状況などを報告し、それに対する意見を聴取するため「熊本連携中枢都市圏地球温暖化対策協議会」を設置しており、現在もその中で公募により選任した委員からも意見等をいただきながら施策を進めているところです。本計画においても、同協議会からの意見聴取を行うほか、地球温暖化対策に関するイベント等様々な機会を捉え住民からの意見聴取を図ってまいります。	対応4(事業参考)
6	山鹿市	素案 p.81	太陽熱温水器(天日)の推進をお願いします。太陽でお湯が作れるので1番エコだと思います。	太陽熱の利用については、地球温暖化対策に有効な手法の一つであると認識しております。 本計画では、太陽熱利用設備、木質バイオマス熱利用設備の普及啓発・導入支援等、再生可能エネルギー熱利用設備の普及促進に取り組むこととしております。	対応2(既記載)
7	宇城市	素案 p.84、86	自動車のEV化推進に賛否はあると思うが、co2を減らすという観点ではEV化を推します。現状の補助金により力を入れる。	本計画では、EVなどの次世代自動車の普及に向け、公用車への率先導入に加え、住民・事業者の皆様への普及促進に取り組むこととしております。 ご意見を踏まえ、次世代自動車を推進するにあたっては、温室効果ガス排出削減効果をより高めるため、再生可能エネルギーを活用した次世代自動車の利用をより推進していくべく、計画素案に追記(計画案p.71、84、85)します。 補助金については、EVの普及状況や国の補助金の動向などを踏まえ、適宜、検討してまいります。	対応1(補足・修正)

提出されたご意見とそれに対する都市圏(23市町村)の考え方

No.	提出市町村	項目	ご意見	都市圏(23市町村)の考え方	対応内訳
8	宇城市	素案 p.97, 99	学校教育においても脱炭素を取り入れる。地域の魅力と脱炭素を結びつける。	地球温暖化対策を進めていくためには、次代を担う子どもたちへの環境教育が重要であると考えております。 本計画では、学校による環境教育に加え、地球温暖化対策に関するイベントの開催、小・中学校等における出前講座などを通して、脱炭素教育等に取り組んでいくこととしております。 また、ご意見のとおり脱炭素の取組により地域の魅力向上、地域課題解決を図ることは重要であると認識しております。本計画では、各市町村の特性を踏まえ、地域課題の解決等に資する脱炭素の取組を進めてまいります。	対応4(事業参考)
9	長洲町	素案 p.82, 97, 99	意見の項目: 地域脱炭素化促進事業における次世代産業(ペロブスカイト太陽電池等)の誘致と、地域経済循環の構築について  意見の具体的内容: 本計画案が掲げる「環境と経済の好循環」を実現するため、以下の3点を具体策として提案し、計画への反映を求めます。 1. 次世代型太陽電池(フィルム型ペロブスカイト)の生産拠点誘致 本計画の「地区・街区指定型」において、熊本市や五名市等の0.9~1.0ha程度の産業用地・工場空き地を対象に、軽量・柔軟なフィルム型ペロブスカイト太陽電池の量産プラントを誘致すべきです。この規模は、ロール・ツー・ロール方式による効率的な初期商用ラインの構築に最適であり、大規模な山林開発を伴わずに「地域共生型」の再エネ導入を加速させることができます。 2. 地元建材メーカー(トステム等)との連携による「建材一体型」の普及 単なる発電事業に留まらず、都市圏内に拠点を有する大手建材メーカー(トステム/LIXIL等)と連携し、フィルム型太陽電池を住宅の壁面や窓、耐荷重の低い屋根に組み込んだ「建材一体型製品」の共同開発・販売を促進してください。これにより、製造から設置までを地域内で完結させるサプライチェーンを構築し、エネルギー支出の地域外流出を阻止、地域経済を活性化させることが可能です。 3. 系統用蓄電池の併設によるエネルギー需給調整機能の強化 工場の空き地等を活用し、系統用蓄電池を設置することで、九州エリア特有の出力制御問題に対応すべきです。余剰電力を蓄電し、需要ピーク時に供給する仕組みを整えることは、本計画が目指す「公共施設のレジリエンス強化」や、安定的かつ安価な地域エネルギー供給に直結します。 結論: 「予算不足」や「産業の停滞」を理由に対策を断念するのではなく、これら次世代技術の拠点化を「先行投資」として位置づけ、国の補助金や民間資本を戦略的に呼び込むことで、脱炭素を「負担」から「稼ぐ手段」へと転換させる計画とすることを強く望みます。	本計画では、ペロブスカイト太陽電池を含む環境関連産業の積極的な誘致・育成、脱炭素関連技術・産業の育成支援、蓄電池やデマンドレスポンスによる電力需給調整の推進に取り組むこととしております。 ご意見を参考に、計画素案における地域脱炭素化促進事業の「地域の経済及び社会の持続的発展に資する取組」の例に経済循環に関する内容を追記(計画案p.109)しました。 また、ご意見いただいた「脱炭素を稼ぐ手段へと転換させること」も重要なことと認識しておりますので、具体的にご提案いただいた施策に関しては、今後の事業の参考とさせていただきます。	対応1(補足・修正)
10	益城町	素案 p.19, 50, 72, 73	電力消費の社会が今後拡大していく現状ですが、電力にも限界があります。都会のために山林、田畑がメガソーラーに埋めつくされて、景観も安全性も考えにはっていないように感じます。太陽光発電の基盤の改良は進んでいるようですが、廃棄処分の安全な方法等はまだまだ未完了です。森林も切り開かれて山があれたままです。風力発電は健康被害や野生動物達のくらしに影響がでます。便利さと安全な暮らしと、もう少し考えてください。	脱炭素を実現するためには、化石燃料から再生可能エネルギーへの転換を進めていく必要がありますが、ご意見のとおり、再生可能エネルギーの導入に関しては、一部で地域における合意形成が不十分な事例や、自然・生活環境への配慮が不足する事例があることは認識しております。 このため本計画では、自然環境との調和など、地域との共生を前提に、再生可能エネルギーの導入拡大を図ることとしております。また、本計画では、地域脱炭素化促進事業の促進に関する事項として、再生可能エネルギー(太陽光)の導入拡大を図るための促進区域等を新たに設定し、地域と共生し地域に裨益する再生可能エネルギー事業の導入拡大を図ることとしております。	対応2(既記載)

参考:概要版のみに対するご意見(意見の件数としてカウントしていません)

提出市町村	項目	ご意見	都市圏(23市町村)の考え方
宇城市	概要版 p.3	家庭版のデコ活に注釈が必要。	概要版に対する意見として受け付けました。素案p.69(計画案p.69)には注釈を記載しております。